

今日は「晴れの日・晴れ舞台」卒業式です。百四十八回目の卒業式。一万九千四百四十三人の卒業生。歴史と伝統を感じます。

卒業生のみなさん一人一人の顔をみて卒業証書を手渡していると、さまざまな思いがこみあげてきて目頭と胸が熱くなりました。「コロナ禍はあけず、今年もさまざまなことに耐え忍ぶ「冬」の期間が長かったので、こうして「春」の訪れとともに、卒業生のみなさんの花開くこれからを楽しみにできること、校長として幸せな思いでいっぱいです。

今年もまた、地域や来賓の方々あるいはたくさん在校生に見送られることがかなわない卒業式のかたちとなりましたが、卒業式にこめられるたくさんの方の気持ち、感動は、少しも薄らぐものではありません。卒業生のみなさんには、まず、そのことをしっかりと伝えたいと思います。

みなさんの小学校生活は入学式から始まりました。小さくて可愛らしく、頼りなげで守ってあげたい子どもたち。きっとそれがみなさんの当時の姿であったことと思います。そこから六年後の今日のみなさんの姿。いつの間にこんなに大きくなったのでしょうか。背丈は伸び、表情は少し大人びて、たくさんのできなかったことができるようになり、たくさんわからなかったことがわかるようになりました。支えられ守られるばかりだ

ったのに、いつの間にか人を支え守ることができるようになろうとしています。成長するということは、とても素敵なことだと思います。

その六年間の大きな成長に思いをさせ、あらためて心から卒業生みなさんに伝えたいと思います。卒業おめでとう。みなさんのこれからが眩しいです。前途洋々でありますように。

さて、卒業にあたりみなさんに、中学校生活であるいはこれからの人生で、忘れずにいてほしい、意識して育ててほしい「二つの気持ち」について話をしたいと思います。

式辞では、格言つまり昔から言い伝えられている人の生き方を示す言葉を紹介して卒業生への贈る言葉とすることが多いのですが、今年はそのような格言ではなく、誰もがよく知っている言葉だけれど奥深い「二つの気持ち」について話をすることにしました。

忘れずにいてほしい、意識して育ててほしい一つめの気持ち。それは「愛」です。

「愛」って、どっという気持ちだと思いますか。例えば、身近なところでは友愛・恋愛・愛犬・家族愛など。大きなところでは愛国心など。身近なところから大きなところまでさまざまな言葉に使われています。

「愛」というのは、簡単に言うと「大切に思う気持ち」です。

自分に関わるさまざまな人やものごとを大切に思い大事にする。それが「愛」です。卒業生のみなさんには、「愛」があふれる人、つまり、たくさんの人やものごとを大切に思い大事にできる人になってほしいと思います。そういう人は、きっと、大切に思われ大事にされます。身のまわりに優しさと温かさがあふれて幸せになると思います。

忘れずにいてほしい、意識して育ててほしい二つめの気持ち。それは「感謝」です。

「感謝」って、どういう気持ちだと思いますか。はじめてきいたという人はいないはずですが説明しようとすると難しいです。「感謝」というのは、「自分一人で生きているわけではないと知ること」だと考えます。たくさんの人やものごとに支えられ、人は生きていくことができる。たくさんの人やものごとに支えられ、人は成長することもできる。そのように知ることだと考えます。そして、自分を支えてくれる人やものごとに、心から「ありがとう」と思える。そんな気持ちが「感謝」です。卒業生のみなさんには、いつも「感謝」を忘れない人になってほしいです。そういう人は、きっと、誰かをしっかりと支える存在でもあるはずです。

「愛」と「感謝」を忘れずに育てていく人。とても素敵な人だと思います。中学生になっても、将来、大人になっても、ぜひ、みなさんにはそういう人であってほしいです。

日本でも世界でも、暗い気持ちになるたいへんなできごとが毎日のおきにいる世の中です。「愛」と「感謝」を忘れずに育てていく人。そんな人が日本でも世界でもあふれるようになれば、きっと、明るい気持ちになれるできごとあふれていくはずです。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業おめでとうございます。お子様の大きく成長された姿をご覧になり、大きな喜びと感動で胸をいっぱいにされているのではないのでしょうか。心よりお祝い申しあげます。あわせて、これまで六年間の学校に対する温かいご理解とご協力に、厚くお礼を申しあげます。中学生となるお子様に戸惑いを感じる時もあるかもしれませんが、ぜひ、変わらぬ愛情とつかず離れずほどよい距離感で、さらなるお子様の成長を見守ってください。

それでは、みなさまの幸福を祈念いたしまして、式辞とさせていただきます。

令和四年三月十八日

大阪市立姫島小学校 校長 吉田健太